

4/15午後

ロシアのプーチン大統領が2月の記者会見でウクライナ侵略について記者の質問に答え、野蛮な侵略を正当化しました。国連憲章、国際法には一切も触れず、平和の国際秩序を乱暴に踏みだしたないとくの反省は無無です。侵略を遂成するまで戦争を続けるのも直感しました。

あからさまな霸權主義

車大なのはプーチン氏が、ウクライナの独立を否定する大国民義、獨逸主義の主張を展開しているのです。ロシア、ウクライナ、ベラルーシを「三位」一体の民族」としてウクライナの「極端な民族主義」が分断を図っていることを、およそ通用しない議論です。

主張

プーチン氏の会見

今回の侵略について、ウクライナの極端な民族主義から同国東部のロシア系住民を救うため、「特別軍事作戦」と言い張ります。親ロシア勢力支配地域の「分離・独立」をロシアが承認した後は「ウクライナによる『脱ロシア』」と叫んでいます。国連憲

許しがたい侵略戦争完遂宣言

章が定めた国際秩序の原則とまったく相違ない考え方です。

国連憲章は他国への侵略を禁じ、紛争の平和的解決を加盟国に義務づけています。他国の一部地域の「独立」を一方的に承認し、その勢力を支援して派兵するなど

が加わって紛争解決をめぐらしくなく相違ない考え方です。

合意の履行は進みませんでしたが、それをもって侵略を正当化す

が、はじめ人道上のルールがシヨネー

は「ウクライナでの行動は敵の抑止だけが目標で、軍事インベイジョンによる安全保障問題を取り組む欧州安全保障機関(OSCE)は「ウクライナ、ロシア両国政府が犠牲になってきました。15年に示した反論はできません。

「ウクライナでの行動は敵の抑止だけが目標で、軍事インベイジョンによる攻撃だ」と叫びます。なぜかは跡形もない

た街や1000万人を超える避難民は何なのか。プーチン氏は「この偽情報の真偽をやめるべきです。

国連総会でのロシア侵略非難決議は141カ国賛成で採択され

ました。世界の圧倒的多数がロシアの侵略に反対しています。侵略を止めるためには国連憲章と国際

法に基づいて国際社会が結束し

ました。世界の圧倒的多数がロシ

アの侵略に反対しています。侵略

を止めるためには国連憲章と国際

法に基づいて国際社会が